

千葉県青年海外派遣「県民の翼」結団式



500万県民記念

ヨーロッパ視察記

県民の翼に参加して

海保 護 二 (屋形宮前)

千葉県民五百万人を記念して、千葉県青年海外派遣事業「県民の翼」が古谷県企画部長を団長に、農林・水産、商工・建設、都市・環境、福祉・衛生、文化、青少年の五組十班、総勢二一五名が参加して、十月二十九日から十一月七日までの十日間の日程で行われました。

デンマーク、フランス、イギリスの三か国を視察研修しました。

福祉省を訪ねて

最初の訪問先、おとぎの国デンマークは人口およそ五百万人で、ほぼ千葉県と同じ位であり、人口密度は117人/km²とヨーロッパではかなり高い方です。他にデンマークで「高い」というと、福祉・税金・物価・賃金、それに社会の平等感と女性の地位だそうです。

我々は早速デンマーク福祉省を訪ね、研修目的である福祉について説明を求めました。それによると、デンマークの福祉の特徴は、各県や市によって独自の福祉行政が行われていて、国は、その各々の県や市が必要と思われる財源の補助をするという事です。医療保険制度も県が管理して、家庭医や病院の紹介をしており、その財源は、県市が50%、国が50%負担してい

ます。

毎年、この地方分担化という方針は変わらないらしいが、82年から政権が社会民主党から保守党に移ったために、公的機関も私的機関へと変遷するようなことの説明がありました。



老人アパート

また、次に訪問したフランスでは、「老人アパート」の印象が最も強く残っています。

「老人アパート」日本では耳慣れないものであり、老人達ばかりが住むということで、我々一行は、少し暗いイメージを持って訪れたのですが、建物に入ると、ダンスミュージックが流れていて、予想とは違っていました。

この老人アパートでは、いろいろの習いごとの会があって、我々が足を入れた時は、ちょうどダンスの会の催しの時間だったので、そこで我々も、その音楽に魅

かれてダンスホールを覗いてみようということになり、一歩、足を踏み入れた途端、アツという間にダンスの渦に巻き込まれてしまい、文字通り老若男女入り混じったの熱演となり、中には感激のためか涙ぐむお年寄りもいました。しばらくして部屋を出たときには全員グッタリ。それに比べてなんとも元気で、陽気なおじいちゃん、おばあちゃん達ですこと、ハイッ!

社会保障制度の

明と暗

最後に訪問したイギリスは、社会保障制度が良く整っていて、年金や保険、失業手当等の給付品目は60以上あり、また生活環境も良く、国民が病気になる場合にも無料で診察できます。

しかし、その反面難しい面もあります。一例ですが薬は医者の方箋をもらって薬局で買うわけですが、その処方箋がサッチャー政権の政府支出削減政策により二度ほど値上げされています。政策以前の一件につき45ペンス(日本円約百六十円)が今では三倍強の1ポンド40ペンス(日本円約五百円)になってしまい、国民の70%にあたる人達が未納しているとのこと。

終わりに

このたびの研修で一番強く感じたことは、ヨーロッパは社会保障制度が大変発達しているということ、反面、高福祉、高負担による労働意欲の減退、そして、失業者(デンマーク失業率12%、イギリス12%)が非常に多いということでした。

最後にこの素晴らしい企画「県民の翼」にご推薦くださいました町の方々に深く感謝いたしますとともに、ここで得た貴重な体験や知識を、これからの人生に何らかのかたちで生かしていきたいと考えます。



大英のロンドンタワーブリッジを背に